

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2023 Mar.

第120号

発掘調査
整理遺跡
紹介

下割遺跡 石船戸東遺跡 蕪木遺跡
企画展・コラム・県内の遺跡遺物／高平遺跡



校外学習

本物を使った歴史学習



2022年度
発掘調査
遺跡の紹介

下割遺跡X 飛鳥時代の集落と祭祀跡

所在地：上越市米岡

^{しもわり}
下割遺跡は高田平野の中央、飯田川左岸の沖積地に立地し、現地表面の標高は約14mです。国道253号上越三和道路の建設に伴い平成14年から断続的に発掘調査を行っており、室町時代、平安時代、飛鳥時代、古墳時代、縄文時代後期の遺跡が、洪水堆積物をはさみながら重なって発見されています。

10回目となる今回の発掘調査では、飛鳥時代（今から約1400年前）の成果が特に注目されます。洪水堆積物に覆われていたため遺跡の残りが極めて良く、建物が集中的に建てられた範囲と祭祀が行われた範囲が、はっきりと分かれることが明らかになりました。

建物は、一部が発見されたものを含めると6棟を検出しましたが、構造は壁立式と見られます。いずれも内と外の境を示す溝に囲まれることが特徴的です。溝は、湿気の強い土地において床面を乾かすことを目的として掘られたようです。ま

た、6棟は同時期に建っていたわけではなく、洪水災害をきっかけに2回、建て替えられたことも分かりました。災害を乗り越え、集落を復旧した様子が分かる貴重な事例といえます。

建物が建てられた範囲の東側では、祭祀の跡が見つかりました。高杯を中心に土器が意図的に配置されており、祭祀に使われたと考えられる手づくね土器や白玉が出土しました。また、須恵器の高杯・杯身・ハソウも出土しましたが、炊飯に使われた甕・甑・支脚が大半を占める建物周辺の遺物構成とは明らかに異質です。これらの状況は、古墳時代中期・後期に見られる土器集積遺構とよく似ていることから、祭祀の跡と考えました。古墳時代の祭祀の伝統が、下割遺跡では飛鳥時代にまで引き継がれたことが分かります。

飛鳥時代の調査事例は、県内でも数少なく、律令体制前夜の頸城地方の様子を知るうえで貴重な成果ということができそうです。（加藤 学）



下割遺跡近景（南から）



溝に囲まれた建物（南から）



祭祀が行われた跡（西から）



祭祀跡から出土した遺物



2022年度 発掘調査 遺跡の紹介

石船戸東遺跡Ⅳ

旧阿賀野川の自然堤防に築かれた古代～中世の集落

所在地：阿賀野市百津地内

石船戸東遺跡は、旧阿賀野川右岸の沖積地に位置し、阿賀野川の流路跡にできた旧百津潟の縁（自然堤防）に所在しています。現況の標高は約8m前後で、ほぼ平坦な地形です。一般国道49号阿賀野バイパスの建設工事に伴い、これまでに2015年度から翌2016年度に延22,826m²、2021年度に160m²の調査を行っています。2022年度の調査面積は延べ1,373m²で、中世～近代の遺構を検出しました。内訳は、掘立柱建物6棟、井戸1基、溝状遺構53条、土坑37基、小穴（ピット）308基、性格不明遺構1基になります。

中世の掘立柱建物の主軸は、主に北西～南東の方向になります。最も大きな建物は、桁行4間×梁間2間（8.10m×5.86m≒面積47.5m²）と推定されます。井戸の平面形は径1.36mほどの歪な円形で、深さは2.2mでした。最下層には水溜めとして、直径38cmの曲物が設置されていました。曲物の直上からは直径5.6cmの円盤状の木製紡錘車が出土しました。溝状遺構は区画溝、または用排水路と考えられます。

遺物は主に溝状遺構から珠洲焼の片口鉢・甕の小片、柱穴内から輸入陶磁器の連弁文青磁などが出土しています。遺構の時期は概ね13～15世紀頃と考えられます。

これまでの調査と同様に各調査区で遺構の密度や種類は異なり、時代毎に居住域と田畑などの生産域、墓域が存在すると考えられます。

（株式会社ノガミ 藤本隆之）



石船戸東遺跡の掘立柱建物（北東から）

蕪木遺跡Ⅲ

所在地：阿賀野市堀越地

蕪木遺跡は、阿賀野川右岸の沖積地、旧河道の外縁部に形成された自然堤防上に所在しています。現況の標高は約10m前後で、旧河道部分より1mほど高く、ほぼ平坦な地形です。一般国道49号阿賀野バイパスの建設工事に伴い、これまでに2014年度から翌2015年度にかけて延べ6,963m²を調査しています。2022年度の調査面積は422m²で、古代～中世の遺構を検出しました。遺構の内訳は、溝状遺構30条、土坑13基、ピット80基、性格不明遺構1基、自然流路跡2か所となります。

古代の遺構のうち、一部のピットは2014年度の調査で検出した掘立柱建物2棟分を構成する柱穴であると考えられ、うち1棟は3間×1間の建物で、もう1棟は調査区より西側に延びる3間×2間以上の建物と考えられます。また柱根や柱痕が残る柱穴も見つかっています。性格不明遺構からは土師器や須恵器とともに、鍛冶炉の炉壁と考えられる遺物が出土しました。2014年度調査のピットからアスファルト塊が出土しており、合せて考えると一般集落とは異なる性格を持つと考えられます。

中世では溝2条を両側溝とする道路状遺構を2本検出しました。2015年度調査の道路状遺構との関係は明確ではありませんが、いずれも自然堤防の縁を通っています。

今回の調査では2014年度調査で見つかった大型掘立柱建物の西側と南東側に集落が続くことが確認されました。（株式会社ノガミ 小村正之）



蕪木遺跡の遺構完掘状況（北から）



埋文
インフォ
メーション

令和5年度企画展1 発掘された名前

4月21日（金）から開催 ～12月17日まで（期間中無休）

新潟県の歴史を大きく書き換えた、古代から中近世までの重要な木簡・墨書土器をはじめとする文字資料の中から、「名前」に焦点を当てます。

名前には、人名のほかに役所名・施設名・地名などさまざまあります。「名前」からみえる人と社会の実像に迫ります。

会 期 令和5年4月21日（金）～12月17日（日）

時 間 9：00～17：00

会 場 新潟県埋蔵文化財センター

観覧無料 関連講演会も予定しております。
会期中、複数回の展示替えがあります。
最新情報はHPでご確認ください。



埋文
インフォ
メーション

少年少女考古学教室（全4回）！

—令和4年度の活動と令和5年度の募集について—

■令和4年度の少年少女考古学教室

全4回の活動を通して、本物の縄文土器に触れ、土器作り、石斧で木を切る体験などを行い、学習の成果をポスターにまとめて学びを深めました。小学4年生～中学2年生の計15名が参加し、写真のような活動をしました。



第1回 ミニ土器作り



第2回 縄文ボシエット作り



第3回 石斧体験



第4回 掘体験



展示会 12月5日～1月9日 新潟県埋蔵文化財センター



■令和5年度 キッズ考古学教室について

令和5年度の考古学教室も充実した活動となるよう計画中です。令和4年度は悪天候により残念ながら中止となった発掘体験も実施予定です。

地域や学年の違う仲間たちと一緒に、考古学の世界を楽しみましょう！ ※企画名称を変更しました

日 程 第1回 7月2日（日）9：30～15：00
「縄文時代はどんな時代？」

第2回 8月1日（火）9：00～16：30
「遺跡に行こう！」

第3回 10月15日（日）9：30～15：00
「縄文人の技を体験しよう！」

第4回 12月3日（日）9：30～16：00
「学んだ成果を伝えよう！」

※展示会 12月4日（月）～1月28日（日）

対 象：小学4年生～中学3年生の16名（先着）

条 件：全4回に参加する方。参加費無料。

申込期間：5月8日（月）～6月29日（木）。

申込方法：氏名・学年・住所・電話番号を添えて
当センターまでお申し込みください。

メール：niigata@maibun.net

電 話：0250-25-3981

F A X：0250-25-3986



埋文 コラム

井戸から鉄鍋と鉄瓶が…

上越市清水田遺跡^{しみずだ}は、国道253号上越三和道路の建設に伴って平成25年に発掘調査した遺跡です。高田平野の微高地に立地し、中世の集落と水田域を検出しました。集落域からは多数の掘立柱建物と井戸を検出しましたが、その中でも井戸SE1089から三足片口鉄鍋と鉄瓶^{さんそくかたくちてつなべ てつびん}が底から出土しました。鉄鍋はほぼ完形。鉄瓶も弦・蓋^{つる ふた}が失われていましたが体部はほぼ完形です。井戸からは豊富な遺物が出土することが多く、発掘調査自体は楽しみではありますが、大きくて深い井戸は安全に調査を行うため慎重に、周囲にも気を配っての緊張する発掘調査です。最初、腹ばいになって井戸の底を覗いたときは白い水垢^{はいき}？がびっしり鉄瓶を覆っていて何だかわかりませんでした。写真等の記録を取るために清掃を行うにつれ鉄鍋と鉄瓶であることがわかりました。地上に上げ、作業員さんに早速お披露目^{ひろめ}をすると歓声が上がりました。うれしさを分かち合い、発掘^{はいうり}冥利^{みょうり}に尽きます。

鉄鍋・鉄瓶は井戸を廃棄するときの祭祀に伴う遺物と考えられます。他の遺跡の事例では鉄製鎌が出土したこともありました。縄文時代から平安時代まで食べ物を煮炊きするときは土鍋を使用しますが、鉄が身近になる中世では鉄鍋が普及します。室町時代には100文くらいで売られていたようです。1文約200円で換算すると現在の価格で2万円くらいになります。現代の作家もの高級土鍋の値段ですね。室町時代でも高級品でしょう。

それを惜しげもなく井戸に埋めるなんて！

鉄瓶は、鉄鍋よりもっと出土例が少ない貴重なものです。出土した鉄瓶は体部に数条の横位の突起が線状に施されています。注ぎ口がひょっとこのお面の口のようにちょこんと付けられていてとてもかわいらしいです。湯を沸かし、白湯^{さゆ}を飲むかお茶を飲むか、はたまた桃山時代の茶人^{ちやじん}ノ貫^{へちかん}のように雑炊も煮たでしょうか。

井戸を埋める祭祀には、井戸の神様が息を吸えるように節を抜いた竹を入れたり、「埋めてよし」の語呂合わせで「梅」と「葦（よし・あし）」を入れるなどと言われますが、実際には梅より桃の種が出土することが多いという実感があります。桃は『西遊記』にも出てくるように邪気を払い、不老長寿をもたらす果実とされています。

中世以降の鉄製品は使用不可能となると鋳つぶして他の製品に生まれ変わります。リサイクルが進んでいます。リサイクルせず貴重な鉄鍋と鉄瓶を井戸に埋めてもらった井戸の神様はさぞかし満足だったでしょう。井戸を埋める時には現代でも細心の注意を払います。蓋をしてあってもよい子は近づかないようにしましょう。

清水田遺跡の鉄鍋と鉄瓶は、新潟県埋蔵文化財センター常設展示室でご覧いただけます。お見逃しなく！
(佐藤友子)

【参考文献】小野正敏2000「中世の物価と埋蔵銭」『日本史研究最前線』新人物往来社



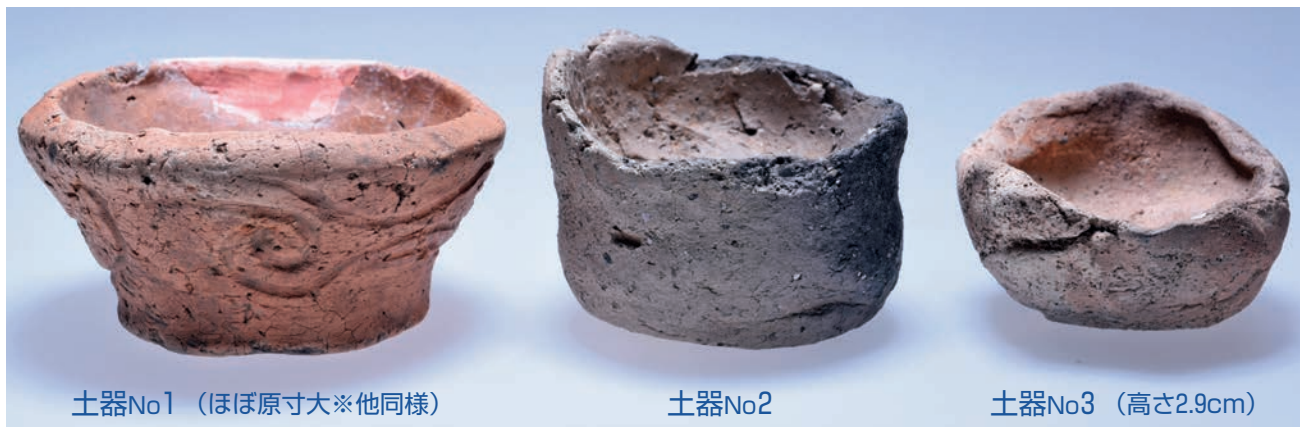
鉄瓶（上）・鉄鍋（下）出土状況



鉄鍋（口径26.6cm）・鉄瓶（器高13.3cm）



小さな形の土器



土器No1 (ほぼ原寸大※他同様)

土器No2

土器No3 (高さ2.9cm)

3つの時代の小さな形の土器

写真の3点は時代の異なる小さな土器で、各時代をとおしてミニチュア土器・手づくね土器等と呼ばれます。当センター展示室の多くの土器は両手で持たなければならない大きさですが、この3点は手のひらサイズの小さな形の土器です。このコラムではセンター所蔵の3つの土器をみながら、小さな形の土器をご紹介します。

縄文時代：魚沼市 清水上遺跡

土器No1は縄文時代中期の土器で、集落跡から出土しました。姿は杯状をなした鉢形をしていて、底部がきちんと作られています。器面には沈線で渦巻文や曲線文が描かれ、口唇部も丁寧な作りです。内側底のひび割れの方から、粘土紐を用いて形作られた可能性があります。

古墳時代：南魚沼市 余川中道遺跡

土器No2は、多量の土器が集中して見つかる土器集積遺構の出土です。石製模造品が多量に見つかったことから、祭祀に関連する遺構と評価されています。粘土紐は使用せず粘土の塊を捏ねて作られており、器面内外を指でなでて整えています。

平安時代：柏崎市 箕輪遺跡

土器No3が出土したのは川跡です。そこには土器や木製品のほかに黒漆塗りの壺鐙、木簡、祭祀に用いられる斎串などが廃棄されていました。土器に残る痕跡から、粘土紐を用いて作られた可能性があります。器面を整えた際の指のあとがはっきりわかります。

「小さな形の土器」はどんな土器？

通常の土器より極めて小さな土器とされ、古くは袖珍土器とも呼ばれていました。現在は土器と同じような作り方のものをミニチュア土器、手で捏ねたものを手づくね土器と呼ぶ場合があります。文様の有無、粗製・精緻なものなど様々で、小型土器との区別や基準となる大きさ、土器か土製品かなど位置づけは定まっておらず、時代をとおした移り変わりなども謎に包まれています。

小さな土器は縄文時代草創期からみられ、縄文時代では土器のほか、木器などを模したものも出土します。古墳時代では祭祀遺跡から見つかることが多いため、祭祀に用いられたことが知られています。弥生時代、古代でも一定数の出土がみられますが、研究も少なくよくわかっていません。

同じ遺跡内でも多様な小さな形の土器が見つかる場合もあるため、土器のなかには祭祀など非実用品の他に、容器などの実用品、子どもの玩具の可能性も指摘されており、形だけではなく出土状況からの検討など今後の研究が待たれます。

ミニチュア土器・手づくね土器は、小さな形に大きな不思議がつまった魅力的な遺物です。どのような意味を込めて作られ、使われたのか、想像がふくらみます。
(葭原佳純)

【参考文献】『日本考古学辞典』日本考古学協会2002

小林達雄編『縄文土器大観3 中期Ⅱ』

小学館1988



埋文 コラム

歴史の道紹介

相川道・松ヶ崎道（佐渡の街道）

佐渡の街道を平成10年『新潟県歴史の道調査報告書第十二集 相川街道・松ヶ崎街道』から古代と金銀山で栄えた時代を中心にご紹介します。

古代は佐渡国と呼ばれました。都と地方の国府との連絡に駅路が整備され駅が置かれました。佐渡には松崎・三川・雑太に駅がありましたが、場所はわかりません。越後国の渡戸駅（長岡市寺泊か）から松崎駅へ日本海を渡ります。佐渡の駅は今の松ヶ崎（写真1）にあったとみられます。佐渡国府は国中（くになか）平野西部と考えられるので、小佐渡山地を越える急な駅路が想定されます。中世には流刑された順徳上皇や僧の日蓮、能の世阿弥も松崎や付近に上陸しています。

筆者は35年ほど前、遺跡調査で松ヶ崎を訪ねた折、使い込まれた須恵器杯を拝見しました。「日蓮様が浜に着いたとき白湯を差し上げた」と地元の言い伝えを聞きました。器は9世紀後半の地元産とみられますが興味深い話でした。

相川道は近世初頭に相川金銀山が開発され、佐渡一島が徳川幕府直轄領（天領）となり整備された公道です。相川の陣屋（佐渡奉行所）から南佐渡の小木湊、赤泊湊まで2つの道があります。

相川では小木道、赤泊道と呼ばれていたようです。幕府へ送る上納金銀は小木湊へ運ばれ、越後の出雲崎に荷揚げされました。元和六（1620）年櫓数七十挺立の御船（奉行所御用船）二艘を新造しました。上納金銀は最盛期には十貫目（約37.5kg）入り木箱で六百箱を年に数回運んだそうです。

道は相川の海沿いから背後の中山道を抜けます。峠には寛永十四（1637）年島原・天草の乱の年に佐渡でも信徒百余名が処刑され、それを悼んで築かれたキリシタン塚や茶屋跡があります（写真2）。茶屋では、相川金銀山へ送られる水替無宿人に甘酒が出されましたが行く末を想い、お代わりする者はなかったと伝わります。小木の手前には承応二（1653）年に築かれた羽茂（村山）の一里塚があり、今は塚の間を国道350号が通っています（写真3）。小木湊と赤泊湊は江戸から佐渡奉行所に派遣された奉行や幕府の上意を伝える上使の江戸との往還にも使われました。小木は海に突き出した城山を挟み内ノ澗、外ノ澗（写真4）と2つの湊を備え、北前船（西廻航路）の寄港地として日本海交易で繁栄しました。（田海義正）



写真1



写真2



写真3



写真4



県内の
遺跡・遺物
118

令和4年3月25日 新潟県指定有形文化財【考古資料】

高平遺跡出土品 853点

遺跡所在地：村上市大関字上野

遺物保管：村上市（村上市埋蔵文化財整理室）

高平遺跡は、県北部村上市の三面川支流の門前川右岸の段丘上に立地します。2年間の発掘調査で縄文時代中期の始めから中頃にかけての大きな集落跡であることが判明しました。調査面積は1,000m²ほどでしたが、遺跡からは縄文時代の大量の遺物、炉を備えた建物跡などの遺構が見つかりました。遺物量は、土器が容量約48ℓの収納ケースでおよそ800箱（復元個体数589点）、土製品89点、石器2,194点でした。

土器群は、新潟県特有の火焰型土器と王冠型土器との総称である「火炎土器」と呼ばれる在地係土器、東北系土器、北陸系土器のグループに大別されます。その中で火炎土器に限れば、高平遺跡はまとまった量が出土した日本最北の遺跡です。

さらに、一つの土器に在地系と東北系、あるいは、在地系と北陸系のそれぞれの意匠が融合した他に類を見ない高平遺跡ならではの土器が多く出土していることも特徴的であることから、高平遺跡は、東北と北陸の両文化が乗り入れるターミナルのような大きな縄文集落であったと思われます。

土製品は、祭祀に係るものと思われる土偶、三角形土版、三角罎形土製品などが出土しています。特に58点という土偶の出土数は、下越地方の同時期の遺跡の中で突出していて、中でも河童形と呼ばれる頭部の平たいものが多いことが特徴です。

石器では、漁労用の網に取り付けたと考えられている石錘（石のおもり）が多く出土しています。現在の村上市はサケ漁で有名ですが、縄文時代も盛んに行われていたのかも知れません。

検出遺構では、石囲炉3基が直線状に並ぶ大形竪穴建物跡が特筆されます。各炉の埋設土器か

ら、建物跡は、縄文時代中期の中頃のものとは判断されます。長さ約15m、最大幅約6mの縦長で、当時の竪穴建物跡としては最大規模です。その大きさから、一般住居とは違い、大勢で利用する場であったと思われます。この建物は焼失したものと思われ、内外から建物の構成部材と思われる炭化材が多く見つかっていて、中には組み木の「ほぞ穴」らしい加工痕を有するものも含まれていました。

高平遺跡出土品は、火炎土器分布圏を一気に北へ押し上げるとともに、当時の遠隔地との交流、精神文化、生活実態などを考える上での好資料であることから、その多くが県の文化財に指定されました。通常は、村上市埋蔵文化財整理室に収蔵していますが、指定を記念し、令和5年7月15日から11月26日まで村上市内の「縄文の里・朝日」で一般公開する予定です。

（村上市教育委員会 塩原知人）



出土した火焰型土器（中央）と王冠型土器（左右）



大形竪穴建物跡



埋文にいがた 第120号

令和5年3月24日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL: (0250)25-3981 FAX: (0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: https://www.maibun.net/

